

定例記者会見

日時 令和4年12月27日（火）
午後2時から2時18分まで
場所 市役所3階 大会議室

発表項目

令和4年 越前市この一年

市長あいさつ及び発表項目

今年も残すところ僅かになりましたが、記者の皆様方には、この一年、様々な形でニュースあるいは報道を通じて、市政の推進にお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

今年的一年を振り返るということで、発表項目を用意してあります。

お手元の資料1、この一年を振り返った項目がありますが、時系列によって記載してあります。この資料1に基づき、主なものをご説明します。

まず、今年1月から新型コロナが越前市内でも拡大して、それに対応する1年だったと思います。1月の頭から市内に広まり、コロナワクチンの対応、あるいは、コロナで困っておられる皆さまへの応援、この二面で進めてまいりました。なお、最近拡大しているので、引き続き警戒したいと思います。

次に、4月からは、私の市政が本格的に稼働しました。昨年11月に就任して、当面実施すべき課題については、プロジェクトチームで対応してまいりましたが、4月からは、副市長を龍田副市長と小泉副市長の2人体制で、人口減少、高齢化、北陸新幹線の開業に向けた様々な施策について、精一杯努めてきました。

特に、総合計画を平成17年に策定しましたが、色々な時代背景、コロナや北陸新幹線の開業など状況変化の中、これからの新しい市政、現在の様々な課題に対応するための政策を積み上げて、かなりスピードを上げて取り纏めてまいりました。4月にスタートして、12月議会に原案をお示しできたのは、私の経験からもスピードが速く、また、内容的には従来の

総合計画よりもより具体的でそれを検証可能な形で取り纏めることができましたと思います。2040年の将来像を示し、課題解決型であります。幸せを実感できるふるさと、ウェルビーイングという新しい観念を取り入れた総合計画であります。

「10万人の元気と活力」、「100年人生の幸福実現」、「1000年未来につなぐふるさとづくり」の3つ考え方を示し、かなり高い目標を掲げ5年間で前に進めるべき12のチャレンジプロジェクトと3つの姿を実現するための6つのテーマ、34の政策を策定しています。

先日の議会でもご議論いただき、現在はパブリック・コメントを実施中であり、それを踏まえて年度内に取り纏めていきます。

とりわけ、ウェルビーイングを指標として扱うというやり方についても、チャレンジングなことでもあります。他の県や市町で実施しているところは余りないので、年度末までに作り上げて、次の段階に行きたいと思っています。

次に、5月11日にNHKの大河ドラマ「光る君へ」が決定しました。紫式部は、生涯で一度だけ京の都を離れて地方に出て、この越前市に滞在しました。ドラマの主人公に紫式部が選ばれ、その年が北陸新幹線越前たけふ駅の開業の年と一致することから、JRのキャンペーンなど、北陸・福井・越前市に注目が集まる、認知度を上げる絶好の機会になります。大河ドラマの主人公に紫式部になったことをきっかけとして、越前市のいろんな魅力を発信したり、来ていただいたり、文化振興や観光誘客などに是非ともつなげたいと思っています。また、民間のいろんな活動団体と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

次に、8月の大雨が記憶に新しいところであります。日野川、大塩谷川で氾濫危険水位を超え、流域11町内1,700世帯に避難指示を発令しました。広域避難場所へは、93人が避難しました。

南越前町では大きな被害が出ましたが、市でもしっかりと体制を整えて、災害対策本部を前倒しで設置し、様々な対応も前倒しでやったところがあります。今は、災害がいつどこでどれくらいの規模で起きるか分からない時代なので、危機管理の体制の強化をしていきたいと考えています。

そうした中、8月、11月には、3年ぶりにいろいろな市のイベントが、まさに帰ってきたところでもあります。サマーフェスティバル、日野川の花

火も素晴らしい花火でしたし、千年未来工藝祭も大変なにぎわいをみせました。また、菊花マラソンも開催しました。市のイベントを市民がそれぞれ楽しんでいただけたと思っています。

次に、越前たけふ駅の駅舎が9月下旬に完成し、現在は設備の工事が進められています。また、駅に併設します道の駅は、年明け3月18日（土）に県道の開通と併せ、オープンに向け準備を進めています。その際には、開業イベント、開通イベントを実施する予定であります。越前たけふ駅前のポジションというものは、やはり道路網、中部縦貫道や冠山峠トンネルが出来て、中京と人の流れや物の流れが大きく変わる、非常によいポジションになってまいります。新幹線の開業だけでなく、道路網の整備、その玄関口としてのインターチェンジ、こういった隣接した場所はありませんので、様々な形で生かしていきたいと思っています。特に観光面では、場所をどうやって使っていくのかが今後の課題と考えています。

項目としては、私の方からは以上であります。

年末に向け、何かと慌ただしい時期を迎えますが、記者の皆様には、ご健勝のうちに輝かしい新年をお迎えになられますことを心からお祈り申し上げます。

引き続き取材等にご協力をいただきますようお願いいたします。私の方から申し上げることは以上でございます。

2 質疑要旨

【質問】 今年一年、新幹線の開業に向けて色々な準備に力を入れていると思われるのですが、当初思い描いていたものが出来ているのか。

【回答】 新幹線の開業については、当初、プロジェクトチームを作りました。ブランドの発信と観光誘客と周辺整備、とりわけ開業までにしなければならないことは、越前市の魅力を磨いて、それを発信していくことが一番大事だと思います。

それについては、それぞれ努力をしているところですが、あと一年、しっかりと間に合わせるようにしないといけないと思っています。これでいいということはないと思うが、例えば伝統工芸品産地とか、まちなかのウォークブル、歩けるまちづくりとか、中央公園の魅力発信とか、歴史文化を生かす、紫式部も新幹線開

業に向けたブランド発信の一つだと思っています。これらを進めていますが、さらに展開していくのが開業前一年の重要なテーマだと思っています。観光誘客も同じようなことだと思っていますが、実際に来ていただいた時に、満足していただいてリピートしていただくということと、県とか丹南エリアといかに連携してやっていくかが大事かと思っています。県の観光連盟や丹南地域の首長との連携も従来とは、かなり進んでいるのではと思っています。県の観光にとっても丹南エリアのスポットは重要だと思うので、いろいろな面と組み合わせて、一つの市町にだけに行く観光は余りないので、福井県全体でのポジションを作っていくのかなと思っています。

新幹線の駅の周辺については、必ずしも開業に合わせてということはないと思いますが、道の駅の整備は出来ましたし、道の駅の前の広場についても、少しスポーツが楽しめるようなエリアとして、にぎわいづくりに繋がるようなものにしてあります。

その他の企業誘致については、商業施設とか研究開発拠点とか様々ありますが、地元の皆さまの気持ちがありますので、そこを大事にしながら一つずつ実現していくことかなと思っています、これからが大事な時期だと思っています。

【質問】 昨年のも年末も質問させていただきましたが、今年一年を表す漢字一文字を挙げるとしたら何になりますか。

【回答】 「紫」、紫式部の紫。大河ドラマの誘致を10年以上やってきましたけれども、ストレートに結びつくものが余り無かった。お江の時の柴田勝家やお市の方は少しだけありましたし、麒麟が来るの明智光秀も関係がありました。特に戦国時代の三傑などは福井と関係はありますが、かすりはするが直接的に関係があるものが余り無かった。今回は、僅か1年少しとはいえ、京都以外で関わりのある、滞在したのは、この越前市であります。

大河ドラマが新幹線開業のタイミングで決まったのは大変ありがたい。これを追い風にして、情報発信や誘客に繋げていきたいと思っています。

以上